



中村接骨院

東京都荒川区南千住5-40-17(城北信用金庫となり)
TEL/FAX.03-5811-6337
<http://www.nakamura-sekkotsuin.com>

独自理論と療法で次々と医療器具の特許を取得 海外でも高く評価される「発明家のゴッドハンド」

対談 院長 中村弘志 ×

インタビュアー「ドレフィション・プロレスリング」

藤波辰爾

藤波 海外で活躍する「ゴッドハンド」として海外企業と医療器具の研究・開発をしながら、病院では症状の改善しない交通事故患者を数多く受け入れ治療に導いてきた臨床実績が医療業界でも有名な中村院長。私自身、椎間板ヘルニアに悩まされており、たまに電気が走るような違和感に襲われるのですが、思うところがあってここ十五年ほど治療らしい治療はしていませんでした。最近家族から「歩幅が狭くなったね」など容赦のない指摘を受けるなど少し不安が増していたのですが(笑)、院長を紹介しても

らって歪みを治す運動方法や柔軟性をアツプする方法など理論と治療法に共感しました。そして今回このように取材紹介できることを私自身嬉しく思います。では、歪んだ骨格や筋肉治療の最前線の現況を施術の流れが分かるように伺ってまいりたいと思います。

中村 脊椎は頸椎が七個、胸椎が十二個、そして腰椎が五個あって、背骨のブロックごとに上から順番に番号で呼びますが、藤波さんは十五年前から何番に問題があると診断されていますか。

藤波 腰椎の四番と五番で、車を運転している時でも突然痛み出すことがあります。

中村 藤波さんの身体を触ってすぐにわかりますが、こんなに決め技、投げに強い身体は常識では考えられません。特に打撃に対する強靭でタフな身体は素質と才能があった上で鍛え抜いた結果ですね。それでもプロレスという職業柄、身体のあるゆる部分に影響が出てくるのは当然だと思います。

藤波 腰以外の痛みはありませんか。

中村 いつも左足を中心に左半身に痛みを感じるのですよ。

中村 では「脊椎ブロックバランス®理論&療法」に基づいて説明させて頂きます。人の身体は脊椎、骨盤、股関節、肩甲骨の位置関係が正しい位置にあり、脊椎周囲の筋肉がバランス良く機能し拮抗している状態が理想なのですが、藤波さんの身体はその位置の歪みと筋肉のバランスが悪くなっているために左足が長く、左の肩甲骨が下がりに内側に入っています。鍛え抜かれたプロレスラーですので胸板が厚く、一見すると脊椎、筋肉のバランスは分かりにくいですが、やはり専門的に見れば改善する余地は大いにありますので、脊椎のブロックをバランス良く正しい位置に保っていられる状態になるよう治療することをお勧めします。人間は様々なプロセスを経て四足から二足歩行へと進化した動物で、それだけにどうしても脊椎に負担が掛かりやすく、ほとんどの方は多かれ少なかれ筋肉のバランスが崩れているものなのです。

藤波 なるほど。脊椎、骨盤、股関節、肩甲骨の位置と周囲にある筋肉のバランスが崩れると痛みなどの症状が起きますね。では、それを改善する具体的な方法を教えてくださいますか。

中村 「脊椎ブロックバランス®理論&療法」と「柔体法®」を用いれば改善されていきます。また、脊椎、骨盤、股関節、肩甲骨を運動して自己矯正する「特別なリハビリ運動」を併せて行なえば、腰、首、肩などの痛みはもとより、変形性膝関節症、側湾症といった症状も快方に向かいます。その結果、手術を回避できた患者さんも多数おられるのですよ。

藤波 臨床的にも成果を上げておられるわけですね。腰痛や肩こりを半ば諦めつつ我慢を重ねておられる方も、痛みから解放されると希望を持つことができますね。

中村 健康保険内では行なえない実費治療

が「脊椎ブロックバランス®理論&療法」及「特別なリハビリ運動」となりませんが、藤波さんも受けられますか。

藤波 はい。ぜひともお願いします。

脊椎の筋肉バランスが改善への鍵
藤波 治療後、身体が軽く楽になり、自然と良い姿勢になって歩くのが分かります。歩幅も大きくなりましたし、これで家族に容赦なく指摘されたのを見返せます(笑)。ダイエツにも効果がありませんか。

中村 はい。実際にはほとんどの患者さんがダイエツの効果を実感されています。藤波さんのように一回の治療で痛みの改善効果を実感する患者さんも多いですが、痛みを改善させるためには最低でも続けて三〜五回、根本的な痛みの原因となる身体の歪みを改善し、再発を防止するためには十二回ほど続けてから治療日を開けていくのが理想です。





中村弘志院長は自らの経験に基づいた確固たる理論で施術法や医療器具を次々と考案し特許取得、現在も日本と海外の出願が多数ある発明家だ。それを国内に留まらず世界中に広めるべく国際的に活躍中である。15年来、腰痛に悩まされている藤波辰爾氏は知人に紹介されて中村接骨院を来院。その治療理論と治療効果、ストレッチ技術の高さ、院長の志に共感。そして1日も早く世界に中村接骨院のスタイルを確立・普及させ、膝・腰痛や肩こりで悩む人達に広めたいとの思いから今回の取材となった。

INTERVIEW HIROSHI NAKAMURA × TATSUMI FUJINAMI

中村 私はこの理論を応用する形で身体の歪みを自己矯正する医療器具の特許を取得しました。現在、海外企業と開発中の試作品がこちらで、近々製品化の予定です。また、

藤波 脊椎を正しい位置にして脊椎周囲に筋肉をつけることによって筋肉のコルセットをつくり、脊椎のズレや歪み、再発を防止するには、患者が自己判断せずに必要な期間通院することが一番重要なですね。

中村 藤波さんの言う通りです。日常生活動作、自宅・職場での姿勢、痛み出してからの間、家事・育児・仕事内容など、良くなる上では個人差がありますが、通院されることで治るための一番の近道です。

藤波 通院の大切さがよく分かりました。院長は武道や格闘技の修行を重ねて、自らの経験と色々な効果的な治療法を元に独自に開発した「柔体法[®]」を行なっていますが、「脊椎ブロックバランス[®]理論&療法」と共に治療をしてもらうことで、負傷して硬くなっている関節の可動域が広がることも分かりました。触れる程度のもので強い力を加えるものまで、また、身体を動かしたり静止させて調整してからの矯正など様々な施術を行なうところにテクニックの高さがあるのが分かります。それに院長ご自身が柔軟な身体を持ち主なのも説得力があります。



「ウォーキングマッサージサポーター」を手に

あんま・指圧と膝の開き予防が鍵

中村 実例として治療経過三年間を診た時、膝内側に、あんま・指圧の治療を継続して行なった方は進行が少なく改善されるのに対して、行なわなかった方は進行が早いんですね。そして骨盤からのO脚矯正予防を行なった患者さんは更に高い効果があるとい

改良したタイプにおいては特許出願中です。藤波 「特別なリハビリ運動」は高い効果を実感しました。この運動が可能となる製品ができた時には、私もぜひ購入したいです。

中村 最初の特許取得製品として海外で商品化された『ウォーキングマッサージサポーター』は、アメリカやヨーロッパ、中国、台湾で医療器具として多くの方に感謝されており、日本でも膝痛に悩まれている多くの方の役に立っていることを願っています。ところで、膝関節は滑らかに動きますか。

藤波 いえ、膝も懸念材料の一つです(笑)。正座は何とかできるのですが、時によっては痛みを伴うこともありましてね。屈伸運動にしても年齢を重ねるごとにスカッとできることは難しくなってきました。以前に半月板を傷めたので、痛みは仕方がないものと半ば諦めている状態です。

中村 外傷は適切に治療できますが、歪みによる足の長さの違い、出産、筋力低下、加齢などの理由から骨盤と共に膝の間が徐々に開き、膝内側の圧迫力が強くなり、膝関節内側に痛みが生じる症例が多いのが現状です。もっと問題なのは、この状態が治療されないまま長期継続することにより膝内側の半月板に負担が加わり、半月板そのものが磨り減るため膝関節に変形や骨棘ができやすくなり変形が進行することです。

藤波 人が歩行する動物である以上、膝痛、変形は避けて通れないのでしょうか。

う統計があります。ですが快方に向かっても通院が困難で中断せざるを得ないケースもあるものですから、その現状を踏まえて開発しました。これを装着すると、あんま・指圧の代用となる効果が得られるのですよ。

藤波 つまり通院しなくても膝の治療ができるわけですね。普通のサポーターとは全く違うと考えてよいのでしょうか。

中村 はい。試しに装着してみてください。

藤波 なるほど、実際に着けると痛みもなくなりそうですし、歩行運動である屈伸をするところが一番痛いところをマッサージされるのがよく分かります。膝関節が圧迫固定されているので試合中に使用したいですね。

中村 痛みの発生する膝関節裂傷部のみを圧迫固定するため、皮膚に接触する面が少なく開発されています。ですから軽やかに使用できる点も好評です。しかし打撃を

広範囲には守れませんで、状態に合わせご使用下さい。

藤波 私などは膝の痛みにも耐えられなくなるかと整形外科へ駆け込んで鎮痛剤を出してもらったことも多いのですが、これらの薬には胃を荒らすといった副作用が付きものです。院長が特許取得したサポーターのように膝の痛みがピンポイントで緩和される優れものがあれば、薬の余計な副作用からも解放されるといメリッ

トが生まれますね。

中村 五通りの方法がありますので、どのような痛みにも合わせて使用できます。

藤波 最後に将来の目標を教えてください。

中村 自院の患者様に満足してもらえ治療を心掛けながら、世界中の悩める方々を救うため、本当に効果的な治療を広める努力をしてまいります。

藤波 明日は試合なのですが(対談日:平成二十二年一月二十九日)、院長直々に施術を

① INFORMATION

「身体が軽くなった」と大満足の藤波氏は翌日の試合に快勝!!

